



生みの親といっしょに  
よりよい育ての親に

わたしを ぎゅっとして  
わたしを 見つめて  
わたしを 聞いて  
わたしを 呼んで

**〔第66回 全国保育協議会 大分大会での研究発表〕**  
**～人間学と人間科学に基づく人間教育を考える～**

私は今年の11月16日～17日に行われた第66回全保協大分大会で、  
第11分科会・フリー発表分科会で研究発表をしてきました。  
今年で8回目になるでしょうか。テーマは次のようになりました。

**〔五感を刺激する 0歳からの人間教育〕**  
**～人間学と人間科学に基づく人間教育を考える～**

改めて振り返って「人間学を通した0歳からの人間教育の取り組み」を考えてみた時、  
我が国には気候・風土・文化・歴史・宗教から生まれた訓えがあります。  
それは古来からの狩猟採集民族としての生き方でもあり、生業でもあり、  
代々線線として伝えられてきた”助け合って生きる”という遺伝子になりました。  
また2000年以上も前に生まれた聖人・賢人たちの東洋思想の教えは日本に伝えられ、  
文化・歴史・宗教の教えと共に変化し、家庭教育・社会教育の根幹として  
この国の人間教育の礎となり「人道」として”人創りの訓え”となってきたのです。

古(ふる)くをたずねてみると、古書「小学」の中に幼少の時から  
身につけるべき作法・徳行を生活の中で教えられ、学び続けてきました。  
その「小学」では「実際の生活に必要な拭き掃除をすること、人に応対すること、行動の作法、  
近親を愛し、長上を敬い、師を尊び、朋友に親しむ道を教えた。」と書いてありました。  
現代の日本では幼児・小学生の身につけたい生活力のランキングを次のように発表されています。



笑ったか ずー 一番 だっこされたか ずー 一番 やさしくされたか ずー 一番  
遊んだか ずー 一番 でかけたか ずー 一番 チャレンジしたか ずー 一番



E-mail [doushinkai@doushinkai.jp](mailto:doushinkai@doushinkai.jp) URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939  
FAX 04-7172-3901

**社会福祉法人 童心会**

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1  
理事長 **中山 勲**



〔幼児〕

1. 早寝・早起き
2. 好き嫌いをしないで食べる
3. おもちゃの片付け
4. 保育園や幼稚園の行く準備
5. 保育園や幼稚園から帰った後の片付け

〔そのほか〕

- ・あいさつ・手洗い・うがい
- ・人の話を聞くとときは目を見て聞くこと

〔小学生〕

1. 早寝・早起き
2. 時間管理
3. 身の回りの整理・整頓
4. 服を脱ぎっぱなしにしない
5. 家の手伝いを進んでする

〔そのほか〕

- ・お金の管理・簡単な料理・人との対応
- ・あいさつ・返事・人とのコミュニケーション

人間科学に基づく人間教育を見つめてみた時、「脳磨き 著者：岩崎一郎 サンマーク出版」の中に、世界の脳科学の知見が”科学的根拠を検証して生まれた”と次のように発表されていました。

〔 科学的エビデンスに基づいた「人が豊かに生きていくための方法」 〕

第一章 科学的に幸せになる「脳の使い方」

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 1)心の豊かさを目指すこと  | 2)他者に貢献すること      |
| 3)非認知能力をきたえること | 4)利他の心で人の幸せを祈る瞑想 |

私は今回、この研究を振り返り、見直してみた時、「現代の日本での幼児・小学生の身につけたい生活力のランキング」を解析するべきだと思いました。人間が未成熟なまま生命の誕生が始まってから、人には天道(宇宙の道理・天命・天意)と人道(人の人たる道)を与えられてきたように思います。上記した生活力ランキングは人道として捉え、それぞれの機能が獲得された時から「できる・できた」の経験・体験からの称賛と共に人道”人のふみ行う道”を身につけていくべきだと思うのです。

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 1)うそをつかない(至善)      | 2)約束を守る(人としての規範)     |
| 3)人のためにできる(お手伝いなど) | 4)自分の事は自分です(整理・整頓など) |

次に私が不思議に思うのは2000年以上も前からの聖人・賢人の教化として日本に伝来してきた文化・宗教が日本の気候・風土・歴史と相まって育まれて文化として定着し、人間学として我が国の人間としての人格を形成してきたように思います。また1990年代から台頭してきた脳科学は我が国でも1995年、京都大学にfMRI(磁気共鳴機能画像法)が導入されて以来、この脳科学の領域の研究は著しく変化しました。その新しい脳科学が実証しているのは、法人だより11月号にも書きましたが「脳が最も活性化するのは、脳内のネットワークが協調的にスムーズに働いている時の脳の状態であることが米国のウィスコンシン大学の研究で明らかになっています。」と”脳磨き”を提唱する脳科学者の岩崎一郎氏は言っているのです。

しかし、私たちの考える「人のWell-being 幸せになろうね！幸せになろうよ！」という願いと祈りは、遊びながら暮らしながら、体を働かせ、脳を刺激し、心を動かし学ぶことから始めなければなりません。

そして実学主義(リアリズム realism)事実・実践・経験を通して”自分を創る・人を創ること”が私たち(社福)童心会の訓え(教え)なのです。

私たちのすべての行事、12月のクリスマス生活発表会もこの意味からはじめたものです。

改めて私たちの求める人間学(人の道理)、人間科学(科学の実証)、人間教育(天道・人道・科学の実証)を含めたすべての物事のそうあるべきすじ道、理(ことわり)は実践の理学から始まるものであると確信しました。

人創りのすべてののはじまりである家庭教育もそうあるべきであり、童心会ファミリーとして総合的な実学から協働して”心をひとつ”にしてはじめるべきなのです。

最後になりましたが、ハーバード大学の研究によればどんな境遇で生まれ育とうと、幸せで豊かな人生を送る人にはたった一つの共通点があるといえます。それは「心温まる、心をつつにできる人間関係を持ち続けられること」といわれています。改めてお願いをいたします。童心会すべての園が一つになってそれぞれのファミリー会を通じ、「心温まる・心をつつにできる」童心会ビレッジ(村づくり)にご協力をお願いいたします。

私たちの力で未来人たちに幸せを・・・！！

令和5年 12月 吉日  
社会福祉法人 童心会  
理事長 中山 勲